

サルをめぐる 12 の本

平成4年1月23日（木）～2月25日（火）

今年の干支は申（さる）。日本では霊長類学（通称サル学）が盛んで、サルに関する本も多数出版されています。今回の常設展示では、当館所蔵本の中から、絵本や猿回しなどサルにまつわる 12 の本をご紹介します。

展示資料リスト

1. 猿まわし復活 その調教と芸

村崎義正 著

京都 部落問題研究所 1980 223p

<KD851-8>

一度は消滅し、まぼろしの芸能と呼ばれた猿まわし復活の記録。著者村崎義正は'91年度芸術祭賞を受賞した村崎太郎の父

2. サルのなかまたち

ブルー・ネーピア [ほか著]

東京 パシフィカ [1979] 143p

<RA571-201>

3. 大正十二年（一九二三年）東北帝国大学医学部による全国ニホンザル生息状況のアンケート調査に対する各郡、支庁、島の回答資料

三戸幸久 判読・注

[犬山] 三戸幸久 1989 2冊

<RA571-E67>

大正時代のニホンザルの分布を知る好資料。当時、東北帝国大学医学部に在職中の長谷部言人が行ったアンケート調査をまとめたもの

4. 見ザル聞かザル言わザル 世界三猿源流考

飯田道夫 著

東京 三省堂 1983 216p

<G121-139>

目、耳、口を手で押さえた三猿の像のルーツを世界に探った書。古代エジプトにその源流があるとしている

5. 悪夢の猿たち Fantastic Dozen 6

荒俣宏 編著

東京 リブレポート 1991 157p

<KC521-E152>

18世紀から19世紀半ばの西洋の博物図譜に描かれた猿回を収録。猿がみな人間じみたポーズをとっている

6. アニマルロアの提唱 ヒトとサル民俗学

広瀬鎮 著

東京 未来社 1984 304p

<GD1-259>

サルとヒトとのかかわり合いの歴史を描く

7. 天然記念物高宕山のサル生息地総合調査報告書 昭和49年度

[千葉] 千葉県教育委員会 1975 195p

<RA571-65>

昭和48年から49年にかけて行われた高宕山(千葉県)のサル生息地実態調査の報告書。身体の特徴による個別識別の説明が興味深い

8. サル学の現在

立花隆 著

東京 平凡社 1991 714p

<RA571-E99>

今西錦司、河合雅雄、伊谷純一郎ら霊長類学者24名と立花隆氏との連続対談をまとめたもの

9. 孫悟空の誕生 サルの民話学と「西遊記」

中野美代子 著

町田 玉川大学出版部 1980 294p

<KK224-5>

『西遊記』の主人公孫悟空が生まれるまでのサルの伝承を研究

10. 奇形猿は叫ぶ 生物の異常は、人類への警告 母さん教えて…

中橋実 [編著]

州本 淡路島モンキーセンター [1983] 75p

<RA571-E37>

淡路島モンキーセンターにおけるニホンザルの奇形発生と、その要因と考えられる環境問題を訴える

